

第三次宮津市子どもの読書活動推進計画中間案に対するパブリックコメント実施結果について

宮津市立図書館

- 1 意見の募集期間 令和8年1月15日(木)～令和8年1月30日(金)
- 2 意見の募集方法 直接持参・郵送・FAX・電子メールで受け付け
- 3 意見提出件数 4名・4件
- 4 意見に対する市の考え方

No	意見概要	市の考え方
1	<p>「(2)学校図書館の役割と取組 ウ 学校図書館の情報化」について、宮津市立図書館の本が学校にいながら読めたり、家にいながら読めたりすることにつながるように、(1)宮津市立図書館の役割と取り組みにも、ICT機器の利点を活かした活用を進めてほしいですし、電子図書館福知山のように、市内の小中学生がIDを持ち、調べ学習や朝読書などにおいて、積極的に活用できるといいと思います。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。市立図書館のICT機器を活かした取り組みなど、今後の施策検討の参考にさせていただきます。</p>
2	<p>アンケートの結果から子どもたちは「本を読むことが好き」だが、実際に本を借りたり読んだりしていないことがあります。学校図書室にも毎年新書をそろえアピールをしていますが、児童が足を運ぶことが少ないのが現状です。そこで子ども達が手に取りたくなる本の選書の課題と共に、図書室の環境整備も工夫できないかと考えます。 例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室でリラックスして読めるスペースを作る。 (じゅうたん敷き、座り心地のよい椅子、ソファーなど) ・図書室(図書コーナー)を教室近くに設ける。 ・休み時間に読みに行くと、冷暖房が付いている。 ・書架の電子化による管理。 <p>他にも、書架の整理や管理、また図書に関わる取組なども司書教諭が校務の中で行うのではなく、専属の司書の方が学校に居て下さり、アドバイスを受けながら学校図書館をより魅力的な場所に整えることができたらいいなと思います。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。学校図書室の環境整備や教育的機能の充実に向け、市立図書館としてどのように支援していくか、今後も検討してまいりたいと考えております。</p>
3	<p>第三次宮津市子どもの読書活動推進計画では、学校図書室の充実、とりわけ「蔵書管理の電子化について環境整備を進める!」などと明記されております。学校図書館の機能向上や教職員の業務負担軽減の観点からも、重要な取り組みであると受け止めております。</p> <p>一方で、現状では蔵書管理を電子的に進行ための機器やシステムの導入について、市としての予算措置はなく、「各学校の予算や努力によるもの」と以前の会議で館長より話されました。この点について、現場としては大きな課題を感じております。</p> <p>「環境整備を進める」と明記されていますが、実際の導入が各学校の裁量や努力に委ねられている状況では、学校ごとの財政状況や人員体制の違いにより、導入の可否や図書室環境に大きな差が生じてしまします。これは、同じ市内に通う生徒が受けける教育環境に差が生まれることにつながり、公教育の公平性という観点からも課題があると考えます。</p> <p>また、蔵書管理の電子化は、単なる利便性の向上にとどまらず、貸出・返却、蔵書点検、資料検索といった日常業務の効率化を通じて、図書担当教職員の負担軽減につながります。その結果、生徒への読書支援や授業との連携など、教育的価値の高い活動により多くの時間を充てることが可能になります。</p> <p>こうした機器やシステムの必要性や運用上の課題は、実際に日々現場で業務を行っているからこそ把握できる点が多くあります。今後の方針検討や整備にあたっては、ぜひ学校現場の声を丁寧に聞き取り、その実情を踏まえた形で施策に反映していただきたいと思っております。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>学校図書室の蔵書管理の電子化につきましては、図書の貸出や返却、また図書検索など効率的で幅広い運用に繋がるものと捉えております。</p> <p>こうした環境整備を進めるにあたりましては、各学校ごとで進めていく手法もございますが、予算や人的労力等を踏まえると、統一的で効果的なシステム整備が重要であると考えております。</p> <p>学校図書室の環境整備につきましては、今ある市立図書館システムの有効活用も視野に入れながら、各学校図書室との連携や効果的なシステム整備に向け、検討を進めてまいりたいと考えております。</p>

4

中学校図書室の蔵書データベース化について、現場の立場から意見を述べさせていただきます。現在、多くの中学校において、図書室が十分に機能するための基盤として蔵書のデータベース化が重要であることは、広く認識されています。蔵書検索の効率化はもとより、生徒の読書活動の促進、授業での活用、教職員間での情報共有など、教育活動全体の質の向上に大きく寄与するものです。

一方で、本市町においては財政的な制約を理由に、蔵書データベース化の導入が長年にわたり見送られている状況が続いている。現場では、デモ機等を取り寄せ、具体的な活用イメージを共有しながら導入の必要性を訴えてきましたが、いまだ実現には至っておりません。

図書室の運営が人手や経験に大きく依存している現状では、担当者の異動や業務負担の増加により、蔵書管理や読書指導の継続性が損なわれる恐れがあります。データベース化は、こうした課題を補い、限られた人員の中でも安定した図書室運営を可能にする有効な手段であると考えます。

厳しい財政状況の中での判断が必要であることは理解しておりますが、蔵書データベース化は単なる設備投資ではなく、将来を担う生徒の学びを支える教育環境整備の一環です。段階的な導入や費用を抑えた方法の検討など、何らかの形で前向きな検討を進めていただくことを、強く要望いたします。

現場の声として、本意見を今後の施策検討の参考としていただけましたら幸いです。

貴重なご意見ありがとうございます。

学校図書室の蔵書データベース化につきましては、児童生徒の読書活動の促進や、学びを支える教育環境としても有効なものと考えております。

また、学校現場におきましては、一人一台タブレットも配備しており従来の教育環境に比べ、学校DXも普及してきている状況です。

こうしたタブレットの活用や市立図書館システムとの効果的な連携など、費用対効果も踏まえ、今後システム整備について検討してまいりたいと考えております。